

## 2002年(第23回)東北建築賞 作品賞部門 2003.3.19 公表

### 選考経過・結果と講評

#### 1. 応募作品数

- ・小規模建築物部門： 4点
- ・一般建築物部門： 17点
- 合計： 21点

#### 2. 選考経過

##### (1) 事前打合せ(2002年9月18日、日本建築学会東北支部会議室)

応募作品の確認を行ったうえ、作品発表会の運営方法と審査基準など選考方法について審議し、いずれも規定と要項、また従来の方法にならうことを確認した。

##### (2) 第1次審査(2002年10月5日、仙台市情報・産業プラザ(アエル6F)セミナールーム、同特別会議室)

応募作品の公開発表会(第13回「東北建築作品発表会」)の後、引き続いて第1次審査の選考委員会を開催した。

選考する作品数や審査基準など選考方法についての再確認を最初に行い、その後、現地調査によって第2次審査の対象とする作品の選考を行った。この選考にあたっては、既に作品発表会における発表と質疑をとおして各作品についての理解がかなり深まっていることからただちに投票を行うこととした。なお、今回は応募作品数が少ないために小規模建築物部門と一般建築物部門に分けず、また各選考委員の投票作品数も決めずに投票を実施した。その結果に基づいて審議を行って、5票以上を得た9作品(小規模:2、一般:7)を選び、得票数4以下の作品には現地調査対象とすべき作品がないことを確認して決定とした。最後に、現地調査方法について審議し、作品ごとに担当者(1作品につき3名の選考委員)の選出を行うとともに、実施の手順などを検討した。

##### (3) 現地調査

対象となった9作品の現地調査は、2002年10月下旬から2003年1月上旬にかけて、それぞれの担当者によって実施された。

##### (4) 第2次審査(2003年1月11日、日本建築学会東北支部会議室)

最初に、各選考委員から、現地調査を担当をした各作品についてA・B・Cの3段階(A評価は東北建築賞に相応しい作品、B評価は審議により賞に入選可能な作品、C評価は賞に及ばない作品)で評価を行ってもらった。その結果に基づいて審議し、全ての委員がAと評価した一般建築物部門の3作品を作品賞とすることとした。次に、これらの3作品を除いた6作品を対象に、それぞれの担当委員からの現地調査報告と質疑応答を行い、審議の結果、3作品(小規模:1、一般:2)を作品奨励賞とすることとした。最後に、作品賞3作品と作品奨励賞3作品を全委員一致で決定、確認した。

### 3. 選考結果

#### 【作品賞】

- ・福島県立郡山養護学校・光の学校 1  
設計監理：(建築) (株)惟建築計画 (構造) 遠山一級建築士設計事務所 (設備) (株)設備工学研究所  
施主：福島県  
施工：(建築) (株)オオバ・陰山組特定建設工事共同企業体 (空調・衛生) (株)石田工業所、  
(株)内藤工業所 (電気) ムツ電株
- ・太田綜合病院附属看護専門学校・光の学校 2  
設計監理：(建築) (株)惟建築計画 (構造) 遠山一級建築士設計事務所 (設備) (有) 甲陽設計事務所  
施主：太田綜合病院  
施工：(建築) (株)間組東北支店 (空調・衛生) 日新設備株郡山営業所  
(電気) (株)ユアテック郡山営業所
- ・金山町立明安小学校  
設計監理：(建築) (株)小沢明建築研究室 (構造) 松本構造設計室 (設備) (株)総合設備計画  
(外構) 背景計画研究所(基本設計)、(株)青木測量設計事務所(実施設計・監理)  
施主：金山町  
施工：(建築本体工事) 沼田建設株 (機械設備工事) (株)ヒラタ住工設備  
(電気設備工事) 東北電機鉄工株 (外構工事) 星川建設株

#### 【作品奨励賞】

- ・有備館駅前広場「ユービック」  
設計監理：(建築) ヴァルトプラッツ杉山丞三浦俊徳 (構造) NS設計/成田諭 (設備) 安井浩太郎  
(ワークショップコーディネータ) 米倉雅真 (アートコーディネータ) アートフロントギャラリー  
(アーティスト) アン・グラハム オーストラリア  
施主：岩出山町  
施工：千田建設
- ・仙台弁護士会館  
設計監理：(株) I N A 新建築研究所東北支店  
施主：仙台弁護士会  
施工：鹿島建設株式会社東北支店
- ・くりはら斎苑  
設計監理：(株) 空間設計 協理事務所 (構造) (株) 蔵 建築設計事務所 (設備) (株) 建築設備設計研究所  
施主：栗原地域広域行政事務組合  
施工：本体工事 (建築工事・電気設備工事・機械設備工事・造成工事) 清水建設株東北支店  
外構修景等工事 (外構工事・仮設建物工事・解体工事) 矢崎建設株  
火葬炉工事 (株) 宮本工業所

### 4. 講評

いずれの応募作品にも、設計者の新しい空間構成の試みとそのねらい、またその建築づくりに関わった多くの方々の熱意と努力が現れている。これらが、建築の使い手をはじめとする多くの人々の要求に沿ったものであればあるほど、その建築は、現代の社会と個々人の生活にとってリアリティーのある意義深いものとしていっそう輝いてくる。大変高い評価を得た入賞作品に限らず、惜しくも選外になった会津現代民家（設計監理：村松篤設計事務所、担当：村松篤）など、今回の応募作品には、このような輝きのある作品として評価すべき内容のものが少なくない。

< 作品賞 >

福島県立郡山養護学校・光の学校 1

肢体不自由養護学校（小学部、中学部・高等部）として 180 名の生徒の学舎であるとともに、40 名の寄宿舎を併せ持つ施設である。おおよそ 1 階分の段差のある敷地形状を巧みに利用し、2 階建てでスモールスケールの建物群を連続させて配置している。寄宿舎においては、グループホームとして公私空間を段階的に組み合わせている。校舎においては小さなクラスルームが中庭、光井戸、トイレなどと有機的に組み合わせられ、クラスター状に連結している。いずれも、空間が個の領域から集団の領域へと巧に広がり、かつヒューマンスケールを維持している。ホール・プレイルーム・スロープ・ヴォイド・ブリッジ・デッキなどが分節域に効果的に設けられている。それらは同時に中庭、光井戸そしてクリアストーリーなどから注ぐ光と影とともに様々なシークエンスを演出し、児童生徒の活動意欲を鼓舞しているように感じられる。養護施設として果敢な取り組みをしていることと同時に、繊細で美しい作品として高く評価できる。

太田総合病院付属看護専門学校・光の学校 2

建築への姿勢を思い知らされる作品である。この建築には自在かつ大胆な空間が作られていることに驚かされる。「道」を意識した敷地周辺の環境への配慮とその活用。この作品の空間そのものを決定づけている構造へのデリケートな考え方。大きく開いた自然光の中で教室群と移動空間、吹き抜けなどのパブリック部分との違和感のない融合。地下 1 階への導入の演出、さらに光の取り入れ方。みごとにまとまった完成度の高い作品である。コストを意識した作品であることも伝わってくる。『構成すること』そのことで主な空間はほぼ決定づけられている。ていねいなディテールはいやみがなく、ましてやその空間構成をじゃますることはない。美しいスケルトンな建築と言ったら語弊があるか。看護師の学ぶ空間として開放的であり、清楚な好感のもてる学舎である。

金山町立明安小学校

地場の金山杉の活用と、来る時代に対応しうる少人数教育・地域社会との連携というコンセプトに明快に建築として応えた小規模小学校である。エントランスギャラリー棟、オープンスクール型の教室棟、食堂棟と空間的にも表情が異なる 3 棟が廻廊・中庭を囲みながら構成され、心地よい教育および生活空間をつくりだしている。教育と生活に広がりを与えるワークスペース・廻廊・中庭の連続的な計画、杉集成材による大架構、スリーヒンジ・トラスによる大空間の構成など様々な試みがされている。計画面での緻密さに加え、地元の技術・伝統に新たな可能性をもたらした杉集成材の活用と RC との混構造は構造的にも見応えがある。

< 作品奨励賞 >

有備館駅前広場『ユービック』

伊達家の学問所「有備館」という伝統的施設の前にありながら、それに迎合することなく新しい形態・構造を取り入れ、なおかつ、木という素材を用いることによって歴史的趣を表現することにも成功している。また地場のスギ材を活用し、金物などとハイブリッド

することにより、新たな木造架構を提案している点も高く評価できる。しかし、木材の乾燥不足により、建具のトラブルや隙間風が発生するなど、建築の品質として問題が生じている点は反省しなければならない。また、地域住民とのワークショップにより住民活動を支援する機能を取り入れたとのことであるが、現状では予想された利用が必ずしもなされていないようであり、計画段階でのプログラムが十分に詰められていなかった点も残念である。

#### 仙台弁護士会館

弁護士会の活動の拠点、総合的な法的サービスの拠点となり、市民に身近な司法を実現する会館としての確に空間を創出している作品である。明快なプランのもと、アトリウムを中心に光と視線により室内外を効果的につなげ、明るく透明感がありかつ暖かみのある吹き抜け空間を形成し、テーマを具現化している。中層とした計画や街並みを映しこむファサードは仙台市街地のまちなみ形成への意識がうかがえる。なお施工の確実さ、管理の適切さは評価される点でもある。相談者の増加、会議室等の良好な利用状況は企画とその実施段階での的確さを示すものであろう。

#### くりはら斎苑

建物は周囲を松林に囲まれた広大な町営公園の中に立地し、風景として溶け込み、設計は恵まれた自然環境を十分に生かしている。正面出入り口・ファサード上部の大きな切妻屋根は栗原地方住宅の独特な屋根形式をシンボルとして取り入れている。内部空間は葬儀の流れ、石積みの納骨室を中心とした、会葬参加者の動線が良く検討されていることがうかがえる。伝統的な建築形態を継承しながら、ガラス、石木材、金属などの特性を有効に活用して、シンプルな中にも安らぎと静謐な空間を巧みに演出している。宮城県栗原地域10ヶ町村、広域行政の重要な施設、火葬・葬儀の場として、当初計画どおり、遅滞なく運営されているとのことである。

2002年（第23回）東北建築賞作品賞選考委員会

委員長 梅津 光男 地方計画部会（八戸工業大学建築工学科）

副委員長 若松 信行 （社）日本建築家協会東北支部（（株）若松六本木設計）

黒田 浩司 構造部会（日本大学工学部建築学科）

会沢 浩平 施工部会（東北文化学園大学環境計画工学科）

板垣 直行 材料部会（秋田県立大学建築環境システム学科）

若井 正一 建築計画部会（日本大学工学部建築学科）

小山 祐司 歴史意匠部会（東北工業大学工業意匠学科）

林 基哉 環境工学部会（宮城学院女子大学）

石井 敏 建築デザイン教育部会（東北工業大学建築学科）

渡辺 佐文 （社）秋田県建築士事務所協会（（株）渡辺佐文建築設計事務所）

井上 高秋 常議員（国土交通省東北地方整備局営繕部建築課）